

## 令和4年度 吉岡町社会福祉協議会事業計画

### ◆基本理念 「支えあい 地域つながる 町づくり」

～笑顔あふれる助けあいのまち～

誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、全ての人が自分の暮らす地域に関心を持ち、住民相互の交流を深め、心を通い合わせることにより、「地域や福祉への関心」・「いきいきと暮らせる」・「安心して暮らせる」・「切れ目のない支援」の仕組みづくりをめざします。

### 〈基本方針〉

近年の社会情勢を見ると、少子高齢化の進行や家族形態の変化、地域社会の変容などにより、私たちを取り巻く環境は大きく変化し、福祉に対するニーズが多様化・複雑化しています。その結果、一人ひとりの福祉ニーズに対応し、幸せな生活を実現していくためには、公的なサービスだけではなく、地域で互いに助け合うことが必要となっています。

このような社会構造の変化や人々の暮らしの変化を踏まえ、制度・分野の枠や支え手・受け手という関係を超えて、人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる、包摂的なコミュニティ、地域や社会を創っていく、「地域共生社会」を目指します。

また、地域福祉計画・地域福祉活動計画を基に、地域住民、福祉団体、ボランティアグループ及び関係機関の方々との連携・協力をいただきながら、地域福祉の推進に取り組みます。

### ◆協議会運営

吉岡町の令和4年2月の人口は、22,100人（対前年+296人、1.36%の増）、高齢者数4,987人（対前年+75人）、高齢化率は22.57%（対前年0.04%の増）、となっております。全体人口が増加している吉岡町にあっても高齢化率が着実に増加する傾向にあります。

一昨年から続くコロナウイルス感染症拡大により吉岡町社協では、この2年間主たる事業のほか殆どの事業が中止や自粛の状況です。ワクチン接種やコロナ感染症も弱体化にあるようですが感染力の猛威により未だ先が見通せない状況にあります。

また、厚生労働省等で懸念している「2025年問題」も3年後にせまり、団塊世代の第1陣となる昭和22年生まれの方が今年度75歳に到達し、超高齢化社会を迎えようとしています。

こうした状況にあるなか吉岡町は、今年度からの第6次総合計画を策定し、将来像を「思いを紡ぎ、未来につなげるまちづくり 吉岡」としました。

吉岡町社協も「紡ぎ」を大切に、「ひとの思いや願いを大切に多くのひとたちと“支えあい”の糸を紡いでいきたい」と思います。

主な取り組みとして、昨年6月から職員の悲願であった、地域担当制『地域つなげる!! つながる!!社協マン』が実施され、地域との交流が活発になりました。より地域に溶け込めるよう邁進し、福祉ネットワークの推進やボランティアセンターの設置により多くの人と紡ぎたいと思います。

なお、主要事業の個別の基本目標・施策は以下のとおりです。

◆基本目標・施策

事業名	主要事業の推進計画
地域福祉活動事業	<p>1. 福祉ネットワーク推進事業</p> <p>子どもから高齢者まで、すべての世代の町民によってふれあい・支えあい・見守りが行われる地域福祉を推進します。</p> <p>○見守り体制の構築</p> <p>地域住民が主体の「見守り体制」を構築するため、自治会に合わせて後方支援を行い、地域福祉ネットワーク事業の強化を図る。</p> <p>○要援護者支え合いマップの作成</p> <p>日頃の見守りを土台に、要援護者や支援者などをマップに落とし込み視覚的に地域の状況を把握する「要支援者支え合いマップ」作成の機会を設ける。災害時の避難等に役立てると共に、顔の見える・相談し合える関係づくりの場として、地域の結びつきを強化し、いざという時に皆で支え合える地域を作ります。</p> <p>2. 地域担当制 『地域つなげる!!つながる!!社協マン』</p> <p>町内13自治会に、地域担当としてそれぞれ職員を振り分け、担当地域の状況を把握し、身近な相談役として、第2期吉岡町地域福祉計画・第2期吉岡町地域福祉活動計画に基づき、「社協の見える化」「地域課題の発掘」「支え合い・助け合いの仕組みづくり」による地域福祉の推進を地域住民とともに図る。</p> <p>また、より多くの住民の声をすくいあげられるように、社協PRも含めて「あったらいいなBOX」を公共機関等に設置し、地域のために何ができるのか、常に考え行動する社協を目指します。</p>

<p>地域福祉活動事業</p>	<p>3. 障がい児・者交流事業</p> <p>町内在住・在勤の身体・知的・精神障がい児・者とその家族や障がい者団体を対象に、老人福祉センターを開放した事業等を実施する。交流や仲間づくりの場となるように、更には地域とのつながりを持てるような事業を計画したい。</p>
	<p>4. 福祉バザー</p> <p>子どもから高齢者まで幅広い年代を対象として、地域福祉、ボランティア活動、社協への理解を深めるために、福祉バザーを実施する。</p> <p>ご家庭に使用せず眠っている物品（贈答品、雑貨、食器、介護用品類）を必要なものと交換する、資源を循環させ、有効活用をする仕組み（リデュース、リユース、リサイクル）を推進したい。</p> <p>収益金は地域福祉事業推進のための財源に活用する。</p>
	<p>5. 制服等リユース事業</p> <p>卒業や成長で不要になった制服類を住民から回収し、「お渡し会」にてそれを必要とする住民へ配布することで、子育て世帯の経済的負担の軽減と資源の有効活用を図る。</p> <p>また、子育て世帯へ社会福祉協議会をPRする機会としたい。</p>
	<p>6. 認知症カフェ事業</p> <p>認知症サポーターが活動の中心となり、認知症の方や家族・地域住民等誰もが気軽に集い、交流できる場の「元気になるカフェ」と、専門職が活動の中心となり、認知症の方やその家族が相談や情報交換ができる場の「22カフェ」二種類の認知症カフェを更に充実させ活動が継続できるよう支援を行う。</p> <p>地域包括支援センターの認知症地域支援推進員と協同し、住民をはじめ、医療機関、介護サービス事業所等に周知を行い、必要な方への利用促進を図る。</p>

<p>地域福祉活動事業</p>	<p>7. 福祉車両貸出事業・福祉機器及び器具備品等貸出事業  高年齢者及び障がい者等の通院や買い物など日常生活の利便性を図ると共に、行事やレクリエーション等への積極的な外出の機会を確保できるよう努める。  また、貸出事業を通して住民同士の交流が深まり、地域活動の活性化を図る。</p>
<p>日常生活自立支援事業</p>	<p>8. 生活福祉資金貸付事業  県社会福祉協議会との連携はもとより、福祉事務所等関係機関、民生委員児童委員との連携をより強め、貸付を必要とする方に生活資金を貸付け、自立に向けた相談援助を行う。  また、償還金滞納者に対する訪問活動を実施する。</p> <p>令和3年度から県社会福祉協議会より委託を受け、基幹的社会福祉協議会として事業を実施。  認知症高齢者や知的障がい者、精神障がい者などで判断能力が不十分な方が、地域で安心して自立した生活を送れるよう、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理等を支援する。</p>
<p>共同募金配分金事業</p>	<p>共同募金で寄せられた浄財を活用し、以下の事業に取り組みたい。</p> <p>1. 一般募金事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入学児童置き傘贈呈事業</li> <li>・学童クラブ図書事業</li> <li>・避難訓練事業(物品関係)</li> <li>・地域福祉ネットワーク事業</li> </ul> <p>2. 歳末たすけあい募金配分金事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい・いきいきサロン推進事業</li> <li>・配食サービス事業</li> <li>・歳末ささえ愛事業及び新年安否確認事業</li> <li>・年越し食料配布事業</li> <li>・情報提供(社協だより発行)</li> <li>・家族介護者交流事業</li> <li>・避難訓練事業(炊き出し)</li> </ul>

受託事業	<p>1. ボランティアセンター事業</p> <p>地域共生社会の実現に向け、町民に分かりやすくボランティア情報を広く発信し、誰もが「※1 プロボノ」として役割や生き甲斐、尊厳をもって活躍できる場とし、ボランティアに関する相談や受付、マッチング等を行い、顔の見える関係性を作っていきたい。</p> <p>さらに地域福祉活動参加へのきっかけづくりに繋がるよう、※2 プラットフォームの力を引き出すコーディネーターとして新たなボランティア活動の発掘、人材確保や担い手育成等の継続を促し、町民が自分らしさを活かし、主体的・自主的に地域や社会のために活動できるボランティア支援を進めていきたい。</p> <p>ボランティア活動の周知と理解を深めるための講座や講習、体験事業の開催やボランティア活動が一層活発に展開されるよう、ボランティア同士の交流や意見交換の場を提供し、更なるボランティアポイント制度の充実を図りたい。</p> <p>※1 プロボノ: 仕事等で培ってきた経験やスキルを活かして社会に役立てること。</p> <p>※2 プラットフォーム: 分野・領域を超えた地域づくりの担い手が出会い、更なる展開が生まれる“場”</p>
	<p>2. 敬老福祉大会</p> <p>町内の高齢者を一堂に招待し、多年の労をねぎらい長寿を祝福し、顕彰すると共に、結婚50周年を迎えたご夫婦に「金婚祝」を行う。</p> <p>また、来場者がより楽しく過ごせるようなアトラクションを計画する。</p>
	<p>3. ひとり暮らし保養事業</p> <p>ひとり暮らし高齢者を孤独感から解放し、共に支え合って地域で生活できるように、楽しい交流の場を提供する。</p> <p>また、その機会を利用し、情報提供や相談窓口としての機能も果たしたい。</p>
	<p>4. 手話奉仕員養成研修事業（入門・基礎課程）</p> <p>聴覚障害者への理解を深め、手話で日常会話ができるように必要な手話技術を習得した手話奉仕員を養成するための研修を開催する。入門課程では手話で挨拶、自己紹介程度の会話ができることを目指す。</p> <p>令和4年度では、入門課程を修了した方を対象に基礎課程を実施する。障害者福祉の発展に繋げていきたい。</p>

受託事業

5. 障がい者のつどい事業

障がいのある人もない人も一緒になって、音楽を通じて交流を図ることを目的とした新春コンサートを町文化センターで実施する。

また、五感を通じて楽しさを感じ、当事者同士の交流や仲間づくり、更には地域とのつながりを持つきっかけとなるような事業を計画する。

6. 精神保健事業 心の休憩所～Tsubomi～

不登校やひきこもりのため、心に不安を抱え、学校や社会、外へと出ていくことが困難な当事者とその家族に対して、不登校・ひきこもりサポートコーディネーターによる傾聴セラピーの場を設け、抱える不安に寄り添いながら不安軽減を図り、ひとりひとりの安心できる外の世界、つどいの場となることを目的に実施する。

7. 介護予防・日常生活支援総合事業（一般介護予防事業）

65歳以上の方及びその支援のための活動に係わる方を対象に、介護状態にならないように、また介護状態になった場合でも、それ以上に悪化させないための事業を実施する。

○介護予防普及・啓発事業を推進するために、あらゆる広報媒体を活用した広報活動を推進すると共に、老人福祉センターを開放した各種普及教室を実施していく。

○地域介護予防活動支援事業では、地域における住民主体の介護予防活動の育成・支援を行う。

特に地域住民ではなかなか実施できない体力測定会や、オーラルフレイルの予防を筋トレ会場に出向き実施する。

8. 認知症サポーター養成講座

地域住民、小中学生及び自治会や企業等を対象に養成講座を開催し、認知症についての正しい知識の普及を図り、認知症の方やその家族が安心して暮らしていける地域づくりを目指す。さらに認知症サポーターを対象としたステップアップ研修を開催し、チームオレンジを立ち上げ、認知症の方の地域支援体制の強化に繋げたい。

また、普及・啓発DVDを作成し、講座での活用やより多くの住民に認知症について知ってもらおうきっかけづくりとしたい。

<p>受託事業</p>	<p>9. 生活支援体制整備事業</p> <p>高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるよう、地域包括ケアシステムの構築を目指し、地域における支え合いの体制づくりを推進する。</p> <p>生活支援等サービスの体制整備に向け、住民による話し合いの場（協議体）として第2層の協議体を設置し、定期的に地域課題解決に向けた話し合いを進めます。</p> <p>また町、社協、包括、協議体、コーディネーターとで地域の高齢者の日常生活ニーズを調査し、地域資源の開発並びに各地域で行っている様々な助け合い活動等について情報発信していく。</p>
<p>善意銀行貸付事業</p>	<p>緊急的に資金の貸出が必要な方に対し、生活再建計画が整い次第、必要な資金の貸付を行う。</p> <p>地域住民の善意の預託を受けて行なう事業であり、住民の理解が得られるように実施していきたい。</p>
<p>老人福祉センター指定管理事業</p>	<p>60歳以上の方が安心して過ごす場となり健康増進や生きがいづくり、仲間づくりの場として利用していただけるように、年間を通して、「行こう！いこいの家八幡！」を開催する。老人福祉センターを利用している各趣味の会と協力した催しや、季節に合わせた諸行事を実施していく。</p> <p>また、若い世代へ周知するためチラシやポスター、ホームページ等も活用し、老人センターを開放した事業を実施する。</p>
<p>学童クラブ管理事業</p>	<p>小学1年生から6年生までの児童を対象とし、子ども子育て支援新制度を遵守した管理経営をもとに、学童クラブ6箇所の運営管理を行う。</p> <p>放課後児童の健康管理、安全確保、情緒の安定に努め、保護者が安心して子育てができる環境を整えていく。</p> <p>また、家庭と学校との連携をはじめ、地域との関わりを図りつつ、保護者の意見が反映されるような運営に努めていく。</p>

<p>群馬県共同募金会・吉岡町支会</p>	<p>令和3年度の赤い羽根募金と吉岡町支会への配分申請を基に、令和4年度の地域配分基準を公平かつ適正に制定し、吉岡町で集められた募金が広く町内福祉団体に活用されるように努めたい。</p> <p>また、年々募金への協力世帯が前年度を下回る納入率となっている。福祉事業を進めていく上で貴重な財源となるため、更なる募金運動のPRを図っていくとともに特別配分事業において地域住民に寄り添う身近な募金として見える化を図っていきたい。</p>
<p>介護保険事業</p>	<p>1. 在宅障がい者生活支援事業・訪問介護事業・介護予防・日常生活支援総合事業</p> <p>利用者に満足していただけるサービスを提供するために、ヘルパーの資質向上に努めるため、各種研修会に参加を促すと共に、ケース会議を通じてヘルパーが共通のサービスが提供できるように努め、地域に根差した地域の方に必要とされる、訪問介護事業を実施する。</p> <p>利用者が可能な限り居宅において、自立した日常生活を営むことができるよう支援を行う。</p> <p>2. 吉岡町移動支援事業</p> <p>障がい者の方が、徒歩にて安全に余暇活動や社会参加の為の外出ができるよう支援を行う。</p>
<p>公益事業</p>	<p>1. 生活困窮者自立相談支援事業</p> <p>失業・就労・家族関係、社会的関係等による悩みを抱え、さらに家族や地域の支えが少なく、経済的に困窮されている世帯等に、総合相談・生活支援に取り組む。</p> <p>また、生活困窮者が抱える多様で複合的な課題を包括的に受け止め、支援を行うにあたり県社協や福祉事務所、ハローワーク、民生委員児童委員等様々な関係機関と連携し、相談に対応する。</p>

<p>公益事業</p>	<p>2. 成年後見制度事業</p> <p>認知症、知的障害、精神障害などにより判断能力が十分でない者が、成年後見制度を円滑に利用できるよう支援を行い、これらの者の権利を尊重して擁護することにより、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう成年後見制度の利用の促進を図り、町民向けや支援者向けの講演会を開催していく。また、普及啓発広報活動の一環として、成年後見制度の寸劇を収録したDVDを作成し、より多くの町民に分かりやすく身近に感じてもらうきっかけづくりを図っていく。</p>
	<p>3. 地域包括支援センター</p> <p>(1) 包括的支援事業</p> <p>○総合相談支援業務</p> <p>高齢者に関する多様な相談に対応できる総合相談機関としての機能強化に努める。積極的にアウトリーチ活動を行い、高齢者の実態把握に努める。</p> <p>○権利擁護業務</p> <p>高齢者虐待の予防、早期発見、早期対応に努める。消費者被害防止の広報や啓発を行い、被害の早期発見ができるよう様々な機関と連携する。成年後見支援センターと連携し、成年後見制度の活用につなぐ相談支援を行う。</p> <p>○包括的・継続的ケアマネジメント支援業務</p> <p>介護支援専門員に対し日常的個別指導・相談・支援困難事例などの相談と研修会を実施し介護支援専門員の資質向上を図る。コロナ禍においても研修が行えるようWeb研修の導入等を検討する。多職種協働による個別地域ケア会議、自立支援型地域ケア会議を開催し、把握した地域課題を町へ伝えていく。</p> <p>○在宅医療介護連携推進事業</p> <p>町や渋川地域在宅医療介護連携支援センターと協同し、地域の医療と介護の連携を図り、地域包括ケアシステムの構築に努める。積極的に主治医や地域の医療・介護専門職等と連携を図り、高齢者支援に取り組む。</p>

公益事業

○生活支援体制整備事業

高齢者の生活を支えるための多様な主体による支援体制構築に向けた協議体の立ち上げが行えるよう、生活支援コーディネーターと連携し、必要な支援を行う。

○認知症総合支援業務

対応が困難な認知症の方に対して、初期集中支援チームで対応し早期診断・早期対応に向けた支援の充実を図る。社会福祉協議会の認知症事業担当者と共に、認知症の人に対して効果的な支援が行われる体制を作る（認知症ケアパスの活用・「チームオレンジ」の発足）。認知症サポーター等養成講座に対し、専門職としての知見を活かし事業へ協力する。早期に相談を受けることの少ない若年認知症の方に向けた支援の充実を図る。

(2) 介護予防ケアマネジメント業務（第1号介護予防支援事業）・指定介護予防支援事業

自立支援に資するサービス計画の作成に努める。要支援者や総合事業対象者が、要介護状態になることを予防し、出来る限り自立した生活が送れるよう、インフォーマルサービスも含めた様々な社会資源を活用し支援を行う。